

東京大学の歴史を記した『東京大学の歴史』が、最近出版された。この書は、東京大学の創立から現在までの歴史を、詳しく、正確に記述している。その中で、東京大学の発展の経緯、その特色、その精神が、よく表現されている。この書は、東京大学の関係者だけでなく、一般の知識階級の学生にも、有益な参考書である。その内容の要約を、以下に記す。

週刊90 加藤哲郎氏



加藤哲郎氏は、1905年生まれ、東京府出身。東京大学政治学部に在籍し、1928年に卒業。その後、東京大学助教授、東京大学経済学部長などを歴任。著書に『加藤哲郎の政治学』、『加藤哲郎の経済学』などがある。

加藤氏の著書『加藤哲郎の政治学』は、政治学の大綱として、政治の一般論、国家論、憲法論、行政論、立法論、司法論、外交論、内閣論、選挙論、政党論、地方自治論などを扱っている。著者は、政治学を「政治の科学」として捉え、その原理原則を明らかにしようとする姿勢が、本書の特徴である。

加藤氏の著書『加藤哲郎の経済学』は、経済学の一般論として、経済学の大綱、生産論、消費論、分配論、労働論、地価論、貨幣論、銀行論、証券論、税論、関税論、通関論、貿易論、国際経済論などを扱っている。著者は、経済学を「人間の行動の科学」として捉え、その原理原則を明らかにしようとする姿勢が、本書の特徴である。

研究所の変遷と共に 大学の流動化を望む



三田 達達 先端研教授

三田達達氏は、先端研教授。著書に『大学の流動化』などがある。彼は、大学の流動化を主張し、大学の役割、その変遷、その未来について、詳しく論じている。その内容の要約を、以下に記す。

三田氏は、大学の流動化を、大学の役割、その変遷、その未来と関連付けて論じている。彼は、大学の役割は、知識の伝達だけでなく、社会の発展に貢献することにあるとし、そのために、大学の流動化が必要であると主張している。また、大学の流動化とは、大学の組織、その運営、その教育の内容など、あらゆる面で、柔軟に対応できるようにすることであると定義している。

三田氏は、大学の流動化を実現するために、大学の組織、その運営、その教育の内容などを、柔軟に対応できるようにする必要があると主張している。また、大学の流動化は、大学の発展に必要不可欠であると主張している。そのためには、大学の流動化を促進するための政策を、政府、大学、社会が協力して実施する必要があると主張している。

三田氏は、大学の流動化を促進するために、大学の組織、その運営、その教育の内容などを、柔軟に対応できるようにする必要があると主張している。また、大学の流動化は、大学の発展に必要不可欠であると主張している。そのためには、大学の流動化を促進するための政策を、政府、大学、社会が協力して実施する必要があると主張している。

三田氏は、大学の流動化を促進するために、大学の組織、その運営、その教育の内容などを、柔軟に対応できるようにする必要があると主張している。また、大学の流動化は、大学の発展に必要不可欠であると主張している。そのためには、大学の流動化を促進するための政策を、政府、大学、社会が協力して実施する必要があると主張している。

三田氏は、大学の流動化を促進するために、大学の組織、その運営、その教育の内容などを、柔軟に対応できるようにする必要があると主張している。また、大学の流動化は、大学の発展に必要不可欠であると主張している。そのためには、大学の流動化を促進するための政策を、政府、大学、社会が協力して実施する必要があると主張している。

民主主義には 一党独裁も天皇制も無用

民主主義とは、国民の権利を尊重し、政治の運営を国民の意思に基づいて行われるべきものである。一党独裁や天皇制は、民主主義の原則に反するものである。民主主義を実現するためには、国民の権利を尊重し、政治の運営を国民の意思に基づいて行われるべきである。

一党独裁は、一つの政党が政治の運営を独占することであり、国民の権利を尊重しない。天皇制は、天皇が政治の運営を執ることであり、国民の権利を尊重しない。民主主義を実現するためには、国民の権利を尊重し、政治の運営を国民の意思に基づいて行われるべきである。

民主主義を実現するためには、国民の権利を尊重し、政治の運営を国民の意思に基づいて行われるべきである。一党独裁や天皇制は、民主主義の原則に反するものである。民主主義を実現するためには、国民の権利を尊重し、政治の運営を国民の意思に基づいて行われるべきである。

東京大学の歴史を記した『東京大学の歴史』が、最近出版された。この書は、東京大学の創立から現在までの歴史を、詳しく、正確に記述している。その中で、東京大学の発展の経緯、その特色、その精神が、よく表現されている。この書は、東京大学の関係者だけでなく、一般の知識階級の学生にも、有益な参考書である。その内容の要約を、以下に記す。

新刊紹介

『加藤哲郎の政治学』 加藤哲郎著 東京大学出版会 1930年出版。政治学の大綱として、政治の一般論、国家論、憲法論、行政論、立法論、司法論、外交論、内閣論、選挙論、政党論、地方自治論などを扱っている。

『加藤哲郎の経済学』 加藤哲郎著 東京大学出版会 1930年出版。経済学の一般論として、経済学の大綱、生産論、消費論、分配論、労働論、地価論、貨幣論、銀行論、証券論、税論、関税論、通関論、貿易論、国際経済論などを扱っている。

『大学の流動化』 三田達達著 先端研出版 1930年出版。大学の流動化を主張し、大学の役割、その変遷、その未来について、詳しく論じている。

『東京大学の歴史』 東京大学出版会 1930年出版。東京大学の創立から現在までの歴史を、詳しく、正確に記述している。